平成26年6月定例会
6月24日～7月2日

今定例会では、国の税制改正に伴う小川町税条例の一部改正など専決処分の承認を求める議案や、平成26年度一般会計補正予算を含めて5件、人権擁護委員候補者の推薦1件を審議し、すべて可決・同意・承認しました。

一般質問は10人が登壇し、当面する諸問題について町の見解や対応をただし、政策提言を行ないました。

平成26年度 補正予算

《主な質疑》

地域による見守り支援体制が強化

問 地域支え合いマップとは。

答 独居老人・配食サービス利用者・緊急連絡システム利用者・災害時要援護者等、該当される方々をゼンリンの地図上に配したものです。当該地区の民生委員をはじめとした方々に印刷したマップを提供し、情報の共有をしていただきます。データは年1回の更新を予定しています。

地域支え合いマップの一例

大河公民館の耐震診断

問 公共施設※のアセットマネジメントとの整合性は。

答 今年度、アセットマネジメントの基本方針を策定し、来年度から具体的に進みます。大河公民館も対象となっているので、今回の診断結果も検討材料になるものと考えています。

発電機3台を購入

問 災害用資機材の詳細は。

答 町内の酒蔵3社と災害時における井戸水の提供に関する協定を結び、有事の際に使用します。防災倉庫で保管します。

ユネスコ無形文化遺産登録に向けて

問 和紙資料活用事業費の詳細は。

答 小川和紙資料館で所蔵されていた資料5600点を購入します。昭和初期に漉かれた細川紙をはじめ、今回、ともにユネスコ無形文化遺産に登録を申請中の本美濃紙や石州半紙もあります。また、和紙を使用した全国各地の加工品や民芸品、紙漉きに用いる道具類も含まれています。貴重な資料の数々は、今後、和紙体験学習センターで展示する予定です。

都市ガスに切り替え

問 庁舎大規模改修の詳細は。

答 主に、空調設備の改修となります。個別空調機併用方式とし、場所を絞ってセパレート的に使用できるようにします。また、今回の改修で熱源を都市ガスに切りかえます。工期は9月上旬から来年1月末を予定しています。

すたむちゃんのひと☆メモ

※公共施設におけるアセットマネジメントとは
一定の行政サービスを維持しつつ、老朽化した施設の統廃合や余剰施設の複合的な活用などを行ない、長期的な財政支出の削減を図る取り組みです。

購入する資料の一部

細川紙製の青森ねぶた

条例の改正

《主な質疑》

税条例の一部改正

問 法人税割の税率が100分の12・3から9・7となるが、減収分は。

答 平成25年度の実績で試算しますと、平成27年度分は330万円の減で、平成28年度分は2000万円の減となります。

問 減収となった額は、すべて歳入予算に地方交付税として補てんされるのか。

答 すべて補てんされるかは、承知していません。

問 軽自動車税が引き上げられることで、その増収見込み額は幾らになるか。

答 350万円程度の増収となります。

問 原付自転車は、税額が1000円から2000円となり、負担がふえるが。トラクターなどの特殊自動車は、地方自治体の裁量で税率が決定できると聞いたが、軽減については考えなかったのか。

答 近隣の町村を加味して対応しました。

問 平成14年以前に購入された軽自動車は、平成28年度から20％重課されるのか。

答 軽自動車においてもグリーン化を進める観点から、最初に登録されてから14年目を迎える4輪車等については、平成28年度から標準税率に対して、おおむね20％の重課が行なわれます。

視察をふまえての調査研究報告

調査研究テーマ　和紙を活用した町の活性化策について

議会から和紙職人への支援など2項目を提言！

岐阜県美濃市を視察（今回の視察研修は、議員総意により全委員会合同で行ないました）

美濃市DATA
人口2万2,089人
（平成26年6月現在）
日本の中央に位置し、天下の名川長良川や緑濃い山々など豊かな自然と1300年の伝統を誇る「美濃和紙」、中心市街地には、江戸時代に築かれた伝統的な建造物が多く残り、歴史的景観が保たれるなど伝統文化が息づくまちです。

今回、石州半紙（島根県浜田市）、本美濃紙（岐阜県美濃市）、細川紙の和紙産地が一括して日本の手漉き和紙技術として、ユネスコ無形文化遺産登録の候補となったことを受け、上記の調査研究テーマのもと、美濃市の和紙産業に対する取り組みを視察した。

和紙の需要減少や後継者育成、道具不足等の問題がある中で、この貴重な伝統技術を保存・伝承し、町の活性化につなげていくことは、当町のみならず美濃市においても共通の課題とのこと。

視察の結果、以下を提言し「和紙のふるさと　小川町」この言葉が国内外に知れ渡るよう最大限の努力を期待するものである。

提言① 伝統技術を保存・伝承していく方策として、手漉き和紙職人や使用する道具類を作る職人を町職員として雇用し、また、原料となる楮やトロロアオイを地場産で賄い生産者のなりわいにつなげる支援をすること。

提言② 町の活性化につなげる手段として、核となる施設に埼玉伝統工芸会館の活用を図るとともに、和紙工・和紙商と連携した新たな商品開発、和紙製品を積極的に使用しＰＲに励むこと。有識者を含む検討委員会を立ち上げ、あらゆる角度から検証し、国際的祭典等も視野に入れた展開を図ること。